

松下幸之助記念志財団 研究助成  
研究報告

(MS Word)

## 【氏名】

必 婷梅

## 【所属】(助成決定時)

お茶の水女子大学 人間文化創成科学研究科

## 【研究題目】

マルチサイトッド・エスノグラフィーからみる越境する台湾仏教の社会参加実践

## 【研究の目的】(400字程度)

本研究の目的は、宗教のグローバル化を背景に、在日台湾系仏教教団 A 山 B 寺を対象に、日本と台湾におけるその社会参加実践を、マルチサイトッド・エスノグラフィー (multi-sited ethnography) の視点から実証的に分析することである。A 山は 1960 年代に台湾の K 市で正式に成立された仏教教団である。「人間仏教」(社会にある仏教) を宗旨とし、社会における教育、文化、慈善など多岐にわたる社会参加実践を行なっている。A 山は 1990 年代から日本に進出し、研究対象 B 寺を含む 6 つの道場を開いてきた。人類学研究の文脈において、このような越境する宗教の多くの研究は布教先の本土化に注意を与えるが、出外国の社会規範や、出外国と布教先のつながりなどが無視される恐れがある。マルチサイトッド・エスノグラフィーという複数の場所で生じる現象を追跡する調査法によって、日本の H 市と台湾の K 市という 2 つの布教現場を取り上げ、お互いの関連性やつながりを実証的な記述によって構成することで、グローバル世界における宗教のあり方を問い直す。

## 【研究の内容・方法】(800字程度)

本研究の調査内容は、主に文献調査、日本と台湾におけるフィールドワークを中心とするものであった。助成を受けた一年間には、以下の調査に取り組んでいた。

## (1) 文献調査

まず、台湾において台湾仏教の歴史および人間仏教に関する中国語書籍を入手し、現地の図書館にて関連資料を複写により収集することで、台湾仏教における A 山の位置付けを把握した。また、A 山が発行する多様な出版物、活動のポスター、公式ウェブサイトにはアップロードされた動画および文書などの資料も収集し、とりわけ比丘尼が開催する多様な活動に注目した。これに基づき、A 山の社会参加実践を概観したうえで、その社会参加実践を支える理念を考察した。それを踏まえ、日本における論文や書籍、新聞記事などを活用し、日本と台湾の仏教の変容と現状を比較検討した。

## (2) 日本にある A 山 B 寺におけるフィールドワーク

引き続いて日本の関東北部に所在する A 山 B 寺を対象にフィールドワークを行なっていた。B 寺で開催された各種行事に参加観察を行なった。また、比丘尼を主な対象として半構造化インタビュー調査を行なった。

## (3) 台湾におけるフィールドワーク

台湾の K 市に位置する A 山の本山をはじめ、各地に点在する A 山の道場を訪問し、A 山と関わる人々に打ち合わせることを通じて、台湾における A 山の社会参加実践を多面的に捉えた。その中では、特に比丘尼の視点に注目し、彼女らが社会参加実践をどのように意味付けるかを考察するため、専門的な布教人材を育成する仏教学院を拠点として調査を実施した。具体的には、参加観察によって、女子仏教学院の日常生活とシラバスを把握し、仏教学院と研究所の院長である 2 人の比丘尼と仏教学院の学生に対して半構造化インタビュー調査を実施した。それを踏まえ、日本と台湾という 2 つの現場で行われていた A 山の社会参加実践を比較検討した。

#### 【結論・考察】（４００字程度）

本研究は、台湾と日本という２つの現場において、A山が慈善、文化など多様な社会参加実践を積極的に展開していることを明らかにした。台湾仏教のグローバル化において、台湾の仏教学院で専門的な教育を受けた比丘尼が布教活動の中で重要な役割を果たしている。彼女らはA山の理念に基づき、布教先の社会文脈に適応しながら柔軟に社会参加実践を行なっていることがわかった。また、日本では、宗教政策や政治体制の影響で、B寺が観光を契機に地域との関わりを深め、朱印所や絵馬の設置によって本土化が進行している。さらに、B寺は地域の観光協会や有名な芸術家と協力し、多様なイベントの開催を通じて、国際的な理解の促進に取り組んでいる。この一年間の調査を通じて、台湾仏教の国際的な社会参加実践を十分に把握するには限界があるため、今後も現地調査を継続する予定である。